

## 『平和構築と紛争予防月間と月面着陸機 SLIM』

毎年 2 月は平和構築と紛争予防月間です。非常に敷居が高いテーマですので単ロータリークラブでは取り組むことはできませんが、昨年 2650 地区がこのテーマに対して平和構築と紛争予防月間に関連するさまざまなイベントを開催しています。例えば、平和構築や紛争予防に関する講演会や映画上映会、パネルディスカッションなどです。

また、1905 年 2 月 23 日は、ロータリーの創始者・ポール・ハリスが、友人 3 人と最初に会合をもった日です。この 2 月 23 日を祝う創立記念日は、「世界理解と平和の日」となっています。そして 2 月 23 日から 3 月 31 日までをロータリークラブの「世界理解と平和週間」とされています。

日本の月探査機 SLIM が 1 月 20 日に月面に着陸しました。旧ソ連、米国、中国、インドに続く世界で 5 カ国目の月着陸成功です。

SLIM がしようとした着陸は、言うなれば「札幌上空をマッハ 6 で通過した直後にフルブレーキをかけ、地上を撮影しながら自分の位置を確かめつつ、自動で兵庫県の甲子園球場に降り立つ」ぐらいの離れ業だったのですが、

大成功と言えるピンポイント着陸でした(写真)。

その後の調査で明らかになった状況を、前述の比喻で説明すると、SLIM は甲子園の上空まで正確に飛んできていました。

SLIM はここで、目標にしていたマウンド付近が思ったより平らでないことに気づきます。

そこで、着陸目標をずらし、センターの守備位置付近に降りることにしました。二つあるメインエンジンを噴きながらゆっくり降下しつつ、補助エンジンで機体をずらしていきます。そして、上空 50m まで降りてきた時にメインエンジンの一つがすっぽ抜けてしまったのです。

片側のエンジンは出力が半減し、SLIM はバランスを崩しましたが、なんとか補助エンジンで姿勢を保とうとしますが、たぶん、着陸したときに変な手の付き方になり頭から前のめりにひっくり返ってしまいました(写真)。

それでもセンターの守備位置から数 m の場所に着陸することはできました。

本来なら、着陸後に近くの石や岩を分析するはずだった SLIM ですが、運悪く太陽電池パネルが太陽と逆側に向いてしまい、発電できなくなりました。バッテリーの残量がどんどん減少するのでチームは分析を断念し、データの送信を優先することになりました。送られてきたデータの解析は今後実行されまた発表されると思います。

今後の予定では 2030 年代に月での住居建設が始まり、2040 年代には人が住むことが想定されています。重力が 1/6 なのでこの重力に対する工夫が重要だと考えられます。

